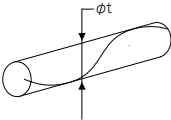
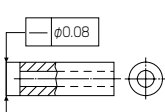

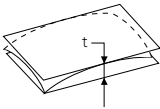
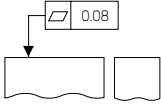
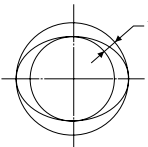
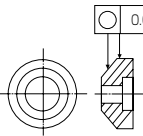

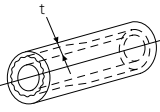
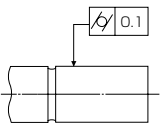


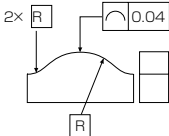

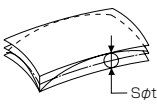
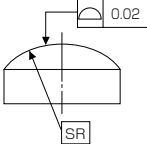

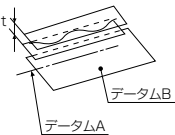
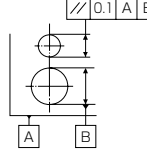


特性に用いる記号および定義

[JIS B0021-1998：抜粋]

種類	特性	記号	公差域の定義	図示例と解説
形状公差	真直度公差	—	 <p>公差値の前に記号ϕを付記すると、公差域は直径tの円筒によって規制される。</p>	 <p>公差を適用する円筒の実際の（再現した）軸線は、直径0.08の円筒公差域の中になければならない。</p>
	平面度公差		 <p>公差域は距離tだけ離れた平行二平面によって規制される。</p>	 <p>実際の（再現した）表面は、0.08だけ離れた平行二平面の間になければならない。</p>
	真円度公差	○	 <p>対象とする横断面において、公差域は同軸の二つの円によって規制される。</p>	 <p>円筒および円すい表面の任意の横断面において、実際の（再現した）半径方向の線は半径距離で0.03だけ離れた共通平面上の同軸の二つの円の間になければならない。</p>
	円筒度公差		 <p>公差域は、距離tだけ離れた同軸の二つの円筒によって規制される。</p>	 <p>実際の（再現した）円筒表面は、半径距離で0.1だけ離れた同軸の二つの円筒の間になければならない。</p>
	線の輪郭度公差		 <p>公差域は、直径tの各円の二つの包絡線によって規制され、それらの円の中心は理論的に正確な幾何学形状をもつ線上に位置する。</p>	 <p>指示された方向における投影面に平行な各断面において、実際の（再現した）輪郭線は直径0.04のそしてそれらの円の中心は理想的な幾何形状をもつ線上に位置する円の二つの包絡線の間になければならない。</p>
	面の輪郭度公差		 <p>公差域は、直径tの各球の二つの包絡線によって規制され、それらの球の中心は理論的に正確な幾何学形状をもつ線上に位置する。</p>	 <p>実際の（再現した）表面は、直径0.02の、それらの球の中心が理論的に正確な幾何形状をもつ表面上に位置する各球の二つの包絡線の間になければならない。</p>
姿勢公差	平行度公差		 <p>公差域は、距離tだけ離れた平行二平面によって規制される。それらの平面は、データムに平行で、指示された方向にある。</p>	 <p>実際の（再現した）軸線は、0.1だけ離れ、データム軸直線Aに平行で、指示された方向にある平行二平面の間になければならない。</p>